

平成23年度 京都府立八幡支援学校 経営計画（スクールマネジメントプラン）

京都府立八幡支援学校

学校経営方針（中期経営目標）		平成22年度のみ（振り返り）ポイント	本年度学校経営の重点（短期経営目標）			
<p>1 児童生徒のいのち・人権、安全・安心を守る。</p> <p>2 一人一人の教育的ニーズに応じて、自立と社会参加をめざす教育を推進し、保護者・地域の信託に応える。（個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく教育を推進する）</p> <p>① 可能性を引き出し、きたえる教育を推進する。</p> <p>② 必要な支援を享受（受け入れて自分のものに）する教育を推進する。</p> <p>③ 「つながり」を重視する教育を推進する。</p> <p>3 地域のセンター的機能をもった「支援センター」を設置し、地域の教育等相談・研究支援等々の要請に応えるとともに、保健・福祉・医療・労働等の分野と連携する。</p>		<p>◇開校初年度2つのコンセプトを中心に順調に学校づくりができた。</p> <p>◇八幡支援学校の基本構想については大きな変更はせず、初年度を振り返りながら修正していく。</p> <p>◇引き続き、今後の八幡支援学校の在り方（学校運営・教育課程）に関わる事項については、3年をスパンに継続して追究していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人ひとりの特性を生かし、協働して職務を遂行するシステムと教職員の意識化を図る。 ・教員一人当たりの授業持ち時間の明確化を図り、研究・研修の充実を図る。また、公開研究会や教材コンペを実施し、授業力・指導力の向上を図る。 ・京都八幡高校との交流を更に発展させ、感性やコミュニケーション力、対人関係スキル等を向上させるとともに、地域に生きる土壌を育てる。 ・地域支援センター「やわた」の機能を更に有効活用し、地域の特別支援教育のセンターとして信頼に応える。 	<p>1 日々の授業づくりを基盤に、「つながり・チャレンジ学習」（テーマ学習）をすすめ、児童生徒につけたい力を醸成・育成していく。</p> <p>2 就労支援の取組をすすめ、自己選択・決定による卒業後の希望進路を実現のために、組織的・計画的に進めていく。また、全学部を串刺し、卒業後のQOLを高める「キャリア教育」をすすめるを授業づくりをする。</p> <p>3 高等学校との同一敷地内にある支援学校の条件を最大限活用した、交流及び共同学習の取組をすすめ、交流に関わる学習の教育的意義・内容をまとめていく。</p> <p>4 地域支援センター「やわた」の事業を定着させ、府内における新たな地域支援機能と個別のセンター機能の役割を見極めながら、本校の独自の機能を明確化していく。</p> <p>5 学校からの発信を重視し、学校HPを充実する。学校における情報管理システムの構築する。</p> <p>6 教職員の「持ち時間数」を明確にし、授業・教材研究等の時間を確保し、総勤務時間短縮を自覚的に進めていく。</p>			
評価領域	重点目標	具体的方策	評価（ABCで示す）			成果と課題
			前期	後期	総合	
組織・運営	教職員の実践力・指導力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち授業時間数の設定、研修時間を明確にした自覚的な管理 ・全教職員の年2回研究授業の実施。活発な授業検討・改善・研究 ・教材コンペ（12月末）の実施 ・教職員のコミュニケーションを重視した職員室等の環境設定 ・全体研修・ニーズ研修等多様に実施、「公開研究会」の実施の検討 				
	地域支援センター「やわた」を設置し、地域の要請に応えた相談支援・講座等の開催等を積極的にすすめる。地域における特別支援教育の構築をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・府内における新たな地域支援機能と個別のセンター機能の役割を見極めながら、本校の独自の機能を明確化 ・内部教育相談支援の実施、高等学校との連携の重視 ・保護者・本人支援、担任支援等のワークショップ等の開催 ・地域支援に関わる内部の計画的・自覚的・組織的人材育成 				
	桃山学園との連携をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の業務負担の軽減と整理。効率的な連携会議の実施 ・課題別（進路・保健・給食等）連携の実施 				
	京都八幡高等学校との連携をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・充実・発展をしている同一敷地内の条件を最大限活かした交流推進 ・担当者会を重視し、事前事後の効率的な連携の強化 ・合同学習（研修）会の開催し、交流の教育的意義の共有化 				
	地域等との連携をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・たけまつりでの交流実施、小中学校との交流の定着、居住地校交流の実施 ・地域自治会、地域の諸団体との共同事業の実施 ・福祉事業所、生活支援センターとの連携、放課後支援等で施設開放 				
	保護者や地域社会に積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの定期更新・情報発信 ・学校評議委員、PTA等との協力・連携 ・たけまつり等、学校行事・授業等の積極的公開 ・学校支援ボランティア等、学生・地域の人材の積極的活用 				
新たな学校運営の在り方（システム）を整備する。障害のある人に関する地域組織への積極的参加・連携を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報管理システムの早期確立、個人情報等の管理の徹底 ・障害者自立支援協議会、就学指導委員会等の委員の派遣 					

評価領域	重点目標	具体的方策	評価（ABCで示す）			成果と課題	
			前期	後期	総合		
教育課程・学習指導	指導計画	<p>日常の授業に活かせるツールとして「個別の指導計画」を作成し、評価（あゆみ）とリンクして児童生徒について保護者と理解を深める。</p> <p>卒業後に必要なQOL等に照準をあて、連携のツールとなる「個別の教育支援計画」を作成し活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達・障害等の視点でのアセスメント（実態把握）力の向上 初年度に継続して、「様式」等を改善・修正（授業づくり、授業改善のツールであることをふまえた改善・修正） 保護者にとっても「わかりやすい」内容説明と評価 児童生徒の過去・現在・未来の連携支援が明確にして作成 新設した校内教育相談委員会を機能させ、有効的「ケース会議」の開催 児童生徒のニーズを基軸に置き、保護者の家庭支援の在り方も共に考え、必要な支援について追求 				<p>QOL：「生活の質」、「人生の質」「生命の質」「生活の満足度」、「何よりも大切にすべきは、ただ生きるだけでなく、よく生きることである」（ソクラテス）</p> <p>ADL：日常生活（着脱、洗面、入浴、排便等）における身辺動作の回復・介助</p>
	授業作り	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育目標である「つながる」「チャレンジする」ことをテーマにして授業をすすめる。 授業づくりの学習の柱として「5つの力」を設定し授業づくりをする。 肢体不自由教育、自閉症教育等障害に応じた教育（授業）内容をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「テーマ学習」に基づく全ての授業、2年目の全ての授業を集約して研究推進 「テーマ学習」をつながり学習、チャレンジ学習としてテーマ性を絞り、交流教育、キャリア教育の授業も含んで全ての教員が研究授業を実施 「5つのつきたい力」を明確にし、授業のねらいや児童生徒に求める学習・指導内容を押さえて授業を展開 肢体不自由や自閉症等、障害の特性に関わる手立てや支援の対応のみが目的ではなく授業づくりの学習 				
	就労支援	<p>自己選択・決定を尊重し、卒業後の希望に基づく進路を実現していく。</p> <p>小・中・高等部とつながる「キャリア教育」を重視し、実践の展開と研究を推進する。</p> <p>児童生徒の実態に応じた作業学習等をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高等部コース制の充実、進路支援システム（専任・ジョブコーチの配置等）の確立。全ての生徒の希望に基づく卒業後の進路の確保 卒業後に必要な仕事・QOL等に照準をあてた授業内容のねらい、学習内容、内容の順序性・系統性等の研究 卒業後の就労生活を見通した、指導内容・作業種の拡大 				<p>【今後の課題整理として】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 進路専任（学校担当者として）の配置 2 自立活動（療育担当）の学部毎の配置 3 作業療法士（OT）のフルタイム配置 4 交流教育担当者の「後追い」講師の配置
	交流学習	<p>同一敷地内に設置されている京都八幡高校との交流を充実・発展してすすめる。</p> <p>地域の小・中学校との交流を計画的に進める。</p> <p>本人・保護者ニーズをふまえた「居住地校交流」の実施</p> <p>地域自治会等の団体との交流を積極的に進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な交流教育の教育的意義についての吟味・定義 「昼休み交流」「行事交流」「授業交流」の初年度の成果の上に充実 小学校、中学校との交流会の実施 「たけまつり」での学校間交流の実施 関係者（本人・保護者・教職員）の負担感のない居住地校交流の実施 年間を通じた交流（支援・ボランティアを含む）の受入・実施 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校的に「串刺し」する担当者の配置を前提に今年度の運営で必要性の明確化と配置の基礎を構築 ○ 各担当者等において自覚的に追求
	教育環境	<p>豊かな教育環境を生かした教育活動をすすめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絶えず児童生徒に必要な教育環境の整備の追求 学習目的に応じた教室の活用、児童生徒の目的的な移動の組織 障害の特性のみでなく、ノーマライゼーション、ユニバーサル等の方向性を明確にした教室等の構造化 児童生徒の環境整備の自覚化と学習（月1度の『お掃除の日』の実施等）、教職員も自覚的・積極的な環境の確保（掃除・ゴミ処理等） 				

◇八幡支援学校の教育・学校運営をすすめるキーワード

- 自立と社会参加をめざす 可能性を引き出し、きたえる教育 支援を享受 地域支援センター
- 持ち授業時間数の設定 年2回研究授業の実施 教材コンペ 教職員のコミュニケーションを重視
- 学校情報管理システム 個人情報等の管理 障害者自立支援協議会 ○アセスメント（実態把握）力の向上 有効的「ケース会議」 保護者の家庭支援の在り方
- 京都府の教育の目標「はぐぐみたい力」
 - ①展望する力：夢と希望を持ち、生涯にわたって自ら学び、自ら高め、未来を見通し切り拓く力
 - ②つながる力：豊かな感性と情緒、人権意識、道徳心を身に付け、社会を担う責任を自覚し、自然、人、社会とつながり共生できる力
 - ③挑戦する力：自らの目標を実現するため、失敗を恐れず挑戦し続ける、強くしなやかな意志と、健康でたくましく生きる力
- 八幡支援学校の教育目標 つながり・チャレンジする子ども・学校

つながる力：人と人、学校と学校 学校と社会、現在から未来・・・子どもたちに「つながり」を大切にしてほしい。

挑戦する力：子どもたちには無限の可能性がある。学びを通して、自ら挑戦することで、未来を切りひらく力をつけてほしい。
- 「つながり・チャレンジ学習」（テーマ学習）
- 子どもたちに「つきたい5つの力」①健康に生きる力 ②理解する、感じる・わかる力 ③伝える、人と関わりを持つ力 ④表現する、つくる・働く力 ⑤社会（家庭・地域）で豊かに暮らしていく力
- 卒業後に必要なQOL ADL 個別の指導計画 個別の教育支援計画 自己選択・決定を尊重 キャリア教育 ○交流教育の教育的意義 居住地校交流
- ノーマライゼーション、ユニバーサル等の方向性を明確化 ○総勤務時間短縮を自覚